

「交流」効果測定のための指標づくり（案）

2014・08・31 KAJIWARA

国土政策の課題（2本柱）

- 1 公共事業 国土の強靱化（安全・便利） 予算の確保（異常災害頻発）
- 2 交流産業 国土の流動化（知的生産性） 税収の確保（情報社会対応）

1 地域の活性化 人口の流動化「交流」

交流人口／定住人口 比率 「流動化人口比率」の拡大

* 「交流人口」入り込み客（日帰り・滞在）＋転入者（移住・「2地域居住」）

* 「交流」日常的「出会い・ふれ合い・語り合い」は重要だが数値化不能？

移動費、外食費、会議費、交際費など

- 1 地域経済を維持できる水準 %～ 「流動化比率」暫定数値の設定

* 外国旅行者30人で定住人口1人の生活を支えると言われる。

- 2 地域経済を発展させる水準 %～
- 3 人口の新陳代謝ができる水準 %～
- 4 人口が増加できる水準 %～
- 5 IJU ターン が増加する水準 %～
- 6 個人起業が増加する水準 %～

2 国土の活性化 景気対策・成長戦略 人口の流動化

- 1 「交流経済」カテゴリーの創設

* 「交流」交通、運輸、観光、移住・・・

- 2 GDP に占める「交流経済」のシェア 税収の確保

* 減少傾向 製造業 設備投資 輸出 海外生産へシフト

* 増加傾向 サービス産業 ソフト産業 「ソフト化」傾向

対外資本収支のうち知的財産収入

* 個人消費 「交流」関係の比率？ 欲求は高次へ モノ離れ

ヒト（サービス）、コト（イベント）、タビ（旅行）へ

モノ依存度「ハード係数」（生計費の「エンゲル係数」に相当）低下

- 3 「交流経済」発展の方策 国内旅行の開発 地域の魅力づくり 「宝探し」

移動コストの低減 高速バス旅行（米国グレイハウンド）など

- 4 「交流経済」発展の効果

① 経済拡大効果 量

② 知的生産性向上 質